



ネット時代の函館ガイド



「不親切な函館ガイド」の表紙

スマホでわかる情報は省略

久しぶりに函館観光の本を出版しました。『来たくなつたら自分で探そう』超不親切 移住者による函館ガイド』と云う題名です。B5判・80ページのコンパクトな本で、紹介している場所について、名前や行き方もほとんど書いていません。題名の通り、記事を見て来たくなつたら自分で探してくださり、という不親切なガイドブックです。旧函館区公会堂や元町教会群などの観光スポットも載せていません。

こんな本のことが函館観光の役に立つのか、と思われるかも知れませんが、インターネットが普及した現在、観光のお役立ち情報なんて、現地に行く前からスマートやパソコンで検索できます。来てからでも市内各所に無料のパンフレットが用意されています。わざわざお金を払って読む本に、そんな情報を載せる必要はない、と思うわけです。

食事やイベントの情報も、いつ変更になるかわかりませんし、ガイドブックで読んだところで、行く前にネットで再確認するのが当たり前になっています。行き方についても、拡大縮小が思いのままのネットの地図の方が役に立ちます。

そんな情報を載せるスペースがあれば、函館の四季折々の風景や、住んでみないとわからぬような隠れたスポットの写真を一点でも多く紹介した方が、旅心がそそられるはず。そういう思いもあって、80ページの中身ですが、8年かけて撮りだめた写真を一々掲載しています。

よそ行きの写真はいらねー

若じころ、有名な観光ガイドブックシリーズの取材の仕事をしたことあります。旅好きなので、軽い気持ちで受けたのですが、苦痛でし

立つのか、と思われるかも知れませんが、インターネットが普及した現在、観光のお役立ち情報なんて、現地に行く前からスマートやパソコンで検索できます。来てからでも市内各所に無料のパンフレットが用意されています。わざわざお金を払って読む本に、そんな情報を載せる必要はない、と思うわけです。

かありました。現地に赴き土地の魅力を肌で感じ前から、編集部との打ち合わせにより取材場所が決められていきました。その決定権もすべて、東京で居座つて、取材は下請けに丸投げという編集部にありました。こんな取材は旅ではありません。ただ義務感だけで、話を聞いて写真を撮ります。納期も限られていて、じつくり写真を選んだり文章をひねつたりする時間もなかつたのです。

写真にしても撮り方はマイコアル通り。取材先の飲食店にしても、ガイドブックに載るのだから、じつはこれで店内を片付けて、人払いをして、じつは具合ですから、悪く言えばヤラセです。

まだインターネットは普及していないかったのですが、ブログにのったり、飲食店の投稿サイトなど何でもありの今や、じくらりとして「よそ行き」の写真を撮って掲載したりして、

者として函館通いを始めてから、さらに定住した8年間を振り返り、自分が素直に、これは魅力的だ、観光客にも見て欲しい、と感じたカットを掲載しています。

発信しそぎは考え方の

基本的に、旅の楽しさといつもの非日常体験にあると思っています。普段、自分の町では味わえないサプライズを期待するから、お金を払って時間を使って旅に出る。だから観光情報も知らせすぎると、来てから楽しさが半減しますし、下手をすれば、来なくても来た気になってしまふのではなじでしょつか。

だからガイドブックも、函館観光のおいしいところだけをチラツと見せる。いつもすれば実際に函館に来て自分の目でもっと探りたくなるでしょうし、それで観光客が増えれば、地元も万々歳だと思うのです。

一方、この不親切ガイドでは、旅行があふれています。だけど今も多くの観光ガイドブックは、ぞいと見た限り、相変わらずの写真の撮り方をしてい

るようです。

★プロフィール★
おお にし つよし
大西 剛さん
1959年生まれ、大阪出身。
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブリ」を設立。「新函館写真紀行」「市電でめぐる函館100選」など函館本の出版に取り組む。新幹線開業に合わせ「来たくなつたら自分で探そう—超不親切 移住者による函館ガイド」を緊急出版。